

美歴 だより

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.22



CONTENTS

諫早市美術・歴史館だより

館長のつぶやき	2
美術館でロケ地めぐり	3
いさはやの生活	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	



プレゼンテーションウォールを開放した常設展示室より※期間限定（R2.4.8～R2.5.25）

左上：染付兎水草文皿（古伊万里） 右下：鍾馗像（甕山焼（内田甕山焼）） 美術・歴史館蔵

館長のつぶやき

-Vol. 5-

新年度のごあいさつ

令和2年度も引き続き本館の館長を務めてまいります堀です。よろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染拡大が深刻となり全国に緊急事態宣言が出されるにいたりました。諫早市美術・歴史館においても市民の皆様と危機感を共有しつつ感染拡大防止に努めております。御迷惑をおかけしている点もあろうかと思いますが御理解の程よろしくお願いいたします。

通常は賑わいを見せる街も静まり、各地区や施設で実施される様々な祭りやイベント等が中止又は延期となっており、「生活の営み」が停滞というよりも止まってしまったかのように感じます。しかし、まずは新型コロナウイルスの猛威が一日も早く終息し、人の命が守られ「生活の営み」が通常に戻るようになることが最も大切です。今は、様々な対策を積極的に推進していくことが肝要だと思っています。

一方で、「季節」の移り変わりは止まっていません。4月には本館が位置している高城地区の山々や森を眺めると、深緑の中に、黄緑色をした葉の塊がこんもりと点在します。また、本館敷地を取り巻くように植えられたツツジは赤白の花を咲かせ、本館の御書院側の木々も淡い緑色の新緑や土手ではアジサイやアオキが新芽を出すなど、生命の息吹を感じさせてくれます。植物たちは季節に応じた姿をこれまでと変わりなく見せてくれています。その姿を観ていると、停滞し、止まったかのような私たちの生活に潤いを与え、「今は耐える時。日常生活が再び息吹くときのエネルギーを蓄える時。」と教えてくれているかのように思えてきます。そういえば、春になって美しい花を咲かせる草花や爽やかな新緑となる木々も、冬の寒さをじっと耐えながら、生命の息吹を思わせるような美しい花を咲かせる春へのエネルギーを蓄えてきたように思えます。逆に言うと、冬の寒さを耐えたことが、春になって花を咲かせ新緑を芽生えさせる原動力になっているとも言えるでしょう。



本館も、今は、計画していた令和2年度の企画展、講座等について、開催できるその日を迎えるまでじっと耐えながら、来館してくださる皆様がより堪能していただける催しとなるよう努めなければなりません。今後、本館での企画展や講座が実施可能であると判断したときには、諫早市並びに本館ホームページ、広報紙等を通じてお知らせをしております。その時がまいりましたら、どうぞ本館にお立ち寄りください。宜しく申し上げます。

市民の皆様におかれましては、お身体を御自愛くださり、特に新型コロナウイルスに感染されぬようくれぐれも御注意ください。共に、この苦境を乗り越えてまいりましょう。

令和2年5月

館長 堀 輝 広

美術館でロケ地めぐり

美術館（博物館）が登場する映画と言えば…。

パッと思い浮かぶのが、「ナイト・ミュージアム」（2006、アメリカ自然史博物館・大英博物館）と「ダヴィンチ・コード」（2006、ルーブル美術館）。

それから「ロッキー」（1976）がトレーニングで階段を駆け上がるシーン。これはフィラデルフィア美術館です。

他には「メン・イン・ブラック」（1997、グッゲンハイム美術館）や「恋人たちの予感」（1989、メトロポリタン美術館）、「007 スカイフォール」（2012、ナショナルギャラリー）、邦画では「図書館戦争」（2013）に北九州市立美術館が登場しました。

今回は次の2作をご紹介します。

◎「おしゃれ泥棒」（1966）

オードリー・ヘップバーン主演のパリを舞台にしたラブコメディ。贋作画家の父親を救うために「贋作」を美術館から取り戻す、というストーリー。

カルナヴァレ美術館（外観）とジャックマール・アンドレ美術館（内部）が使われています。



◎「めまい」（1958）

ヒッチコック監督作。高所恐怖症の探偵が尾行する美女が、毎日のように美術館を訪れ、絵画「カルロッタの肖像」の前でたたずむ…。美女と絵画との関係は…？

サンフランシスコのリージョン・オブ・オーナー美術館が使われています。



お宝を狙う強盗団VS 厳重な警備のドキドキ感、絵画に秘められたミステリー、建築物としてのおもしろさ…。

美術館（博物館）がロケ地になった映画。みなさんは何を思い浮かべますか？



いさはやの生活

VOL.5 あいさつの言葉—方言と標準語

(諫早の社会生活については美歴だよりNo.14から17号で社会生活1～4を紹介しましたが、今年度はその続きを紹介します。)

人と会うときや訪ねるとき、私たちは挨拶をかわします。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」というのは全国どこでも使う挨拶の言葉です。現代、私たちが普通に使っているこうした挨拶の言葉。これは昭和はじめ頃までは全国どこでも交わされていたわけではありません。各地ではその挨拶言葉が交わされていました。挨拶だけでなくいろいろな場面で、全国どこでも言葉が通じる、話ができるというのは、いわゆる「標準語・共通語」が使われるようになってからのことです。「標準語」は最初からあったわけではありません。明治になり、それまでの藩による統治がなくなると、時の政府は全国を視野に入れることになります。そこで大きな障害となったのが言葉でした。それまでの各地域で使われていた言葉がその地域でしか通用しない、他所との意思疎通がむづかしい。ということで、組み立てられたのが「標準語」、いわゆる「共通語」です。話す、聞く、書くのが全国どこでも一様な言葉で、標準語という用語は明治36(1903)年の公文書に見えます。ではどういふふうに標準語を受け入れてきたのでしょうか。民俗調査のなかから紹介します。

諫早では挨拶を「モノイヒ」と言っていました。朝、人と会ったとき「ハヨゴンシタア」と言葉をかわします。これは朝早くから精が出ますねといったことで相手が働き者ということをお祝いするものです。人と別れるとき、成人は「アイバマタナタ」と挨拶します。このマタナタというのは近々に逢いましょう、永の別れではないよということで、永の別れという不吉なことを避けた言いようです。代々受け継いできた言語には力、思想があります。さようならでは何を言っているのか分からなかったそうです。子供の間では、友達と別れて帰るとき「サンバニャ」「サンバネ」と声を掛け合っていました。昭和はじめころ、さよならと言うのは抵抗がありました。学校では美しい日本語ということで標準語の教育をしますが、子供たちは容易に使うことができません。それは自分たちの言葉ではないと思い、「こんにちは」「さようなら」は学校でだけ使っていたものでした。標準語をしゃべるのはとても恥ずかしかったといいます。今でこそ違和感なく聞く、喋る、書く言葉ですが、なかなか簡単には受け入れられなかったようで、それには時間がかかりました。

災難や災害にあったときの見舞いの言葉も今では全く聞かれません。たとえば火災や水害にあったときには「ダチミナハウセンナコッテゴンシタ」と見舞います。奇跡的な、大きな災難に会いましたね、大変ですねといった意味です。今では災難はそのまま「大変な災難でしたね」で全国どこでも通じます。

暮らしの中の言葉は生産活動や付き合いなどから成り立ってきたものです。ここでは挨拶に関して言葉の面からとりあげましたが、挨拶はこれだけでなく身振りや服装にも表すもので、社会生活のなかでも基本的なものです。なかなか簡単には受け入れられなかったようです。

一 御家中惣人数相尋ねられ候節は、五百人余りと御答申し上げ候様
の事

一 古町大橋掛け整方何れの筋より相懸り候哉と、相尋ねられ候節
は、右は上御役筋より御掛け方に相成候様、御答申し上げ候様の事
右の外、自然、廉々相尋ねられ候義も、これ有り候節は、不都合の
義等これ無き様、大図を相答、位細の筋等は、成丈御答申さず、上
様何れも厚加勘弁、左候て、御尋ね事等は、委細に本陣部役方へ相
達し候様、取り計いこれ有るべく候、以上

戊閏四月

巡見方

船越村庄屋 八十右衛門

諫早町別當 仁平次

森八十右工門

山田仁平次

御領内御道引の者、郷町共御一頭に三人充、小脇指さし相勤め申す
べく候、尤も、庄屋相勤め候者の外、平百姓より御道引に罷り出で
候者、外向の義は、其所にて頭立候者より差し出し候はて、相叶わ
ず庄屋の代り相勤め候訳を以て、此一准小脇差さし候の義、差し免
され候条、自然、庄屋又は平百姓の分、相尋ねられ候義、これ有り
候はば、村役の者の由、申し上げべく候、且又、相付様の義は、御
上使是請取候境目罷り出で居り被御通懸候、御方々御名先払の者へ
承合、其御方に相付き候、兩人の者、御道脇へ平伏仕り、御駕籠副
の人々迄、御道引の者に候段、申し達し、御駕籠相付き、罷り越す

べく候、引替えの節も、替り候通りを申し達し、引取候様の事

附り、本文三人相付き候内、兩人は上使御加こに相付き、一人は
先立の用人加こへ相付き候の様、且つ、雨天の節は箕笠にて罷り出
でべく候、尤も、御通懸られ候節は、笠を抜き、御礼仕り候様の事
一唐比より諫早迄御一頭にて相付き候、二人の内、一人は唐比辺り
の者、一人は諫早の者、組合御銘々へ相付き申すべく候、其銘々の
義に付きて、御尋ね事等これ有り候節のため、最前は唐比辺りの
者、御駕籠脇へ相付き、諫早の者、御行列先に相立ち、半途にて御
駕籠杯立候時分見合、諫早勝手のを御駕籠相付き、唐比勝手者を
御先二相立繰替え相勤めべく候、其節、御家来へ繰替候段、申し達
し候に付様、勿論、御上使御銘々へ相付き候者共、いずれも能、其
意を得、罷り立ち候様の事

一 諫早より深海迄

一 深海境川より大田尾境迄

一 大田尾より湯江境迄

一 湯江より多良迄

一 多良より濱迄

但し、此間、御駕籠相付き候六人の者共、前条唐比より諫早迄の間
の通り、組合、相勤めの事

(終)

Vol.11

美術の部屋

-諫早・長崎ゆかりの作家-

野口彌太郎／諫早の眼鏡橋を描く

眼鏡橋はかつては本明川にかかり、「諫早のめがねばし、いきもどりすれば、おもしろかなり」と謡われるように市民に愛される諫早の名所でした。しかし、昭和32年の諫早大水害で大きな被害を受けたことから諫早公園に移築保存されることになり、諫早市は解体前の眼鏡橋の制作を彌太郎に依頼しました。当時、諫早高校で美術教師をしていた向井初実氏は、教師仲間から、彌太郎が眼鏡橋から近い場所に制作場所を探していると聞き、その制作の場として自宅のアトリエを提供しました。下の2作品は、アトリエを借りた彌太郎からそのお礼にと向井家に贈られたものです。



▲諫早の眼鏡橋／1958年頃



▲婦人像／1958年頃

野口彌太郎 明治32-昭和51（1899-1976）

二科展や独立美術展、国際形象展を中心に、日本洋画壇で活躍したフォービズムの画家です。父は諫早市小野町（旧北高来郡小野村）出身。少年時代の一時期を父の郷里諫早で過ごしました。

古文書の部屋

近世古文書の分類

近世—江戸時代に書かれた古文書は、文書を作成または発行する身分階層により、いくつかの種類に分類することができます。文書の種類を把握できれば、文章の大まかな内容を類推して読む上での大きな手掛かりになります。

武家文書

武家文書とは支配身分である武士が行政にまつわる多種多様な事柄を被支配身分の町人や農民に対して指示・命令を発した書状のほか、幕府から領地の支配権を認められた証明となる朱印状や各藩の藩政を記した日記などの記録類を指す。

例) 知行宛行状、領知方目録、領地高帳、分限帳、座居帳、御年譜、御番所日記、御用状、御用日記、伝馬朱印状、…など

地方(じかた)文書

地方文書の「地方(じかた)」とは城下町などの町方と異なり、農業生産を主な生業とする、村方とか在方とも呼ばれる農村のことを指す言葉。

地方文書は、江戸時代の農村に存在する文書のことで、農村を管理した庄屋や名主と呼ばれた中間的な支配層を通じて藩などからの指示・命令を受けた書状のほか、農業生産や納税に関わる記録が多くを占めている。

例) 加地子米収入帳、検地帳、五人組帳、講金帳、小作証文、小前帳、年貢割付帳、祭礼入用帳、作付帳、質地証文、地引帳、助郷帳、頼母子仕法帳、田畑売渡証文、田畑反別帳、鉄砲御改方覚帳 …など

以上のほか、大福帳や金銭出納帳といった「商家文書」や、過去帳や寺請証文などを含んだ「寺社文書」も古文書の種類の名称として挙げるすることができます。

参考

「諫早家文書」が令和2年2月13日、長崎県有形文化財に指定されました。武家文書の一つで、佐賀藩諫早領を領有した諫早家に伝来した日記類1033点や、記録類390点、絵図類85点からなる古文書群です。



発行月：令和2年5月

館講座

(各講座定員20名※要申込)

歴史講座

「諫早騒動」

とき 6月14日(日)
13時30分～15時00分
ところ 諫早市美術・歴史館 2階研修室
内容 寛延3年(1750年)に起こった
諫早騒動(諫早一揆)について
講師 大島 大輔(美術・歴史館専門員)
受講料 無料

館長講座

「諫早菖蒲日記と諫早の歴史」①

とき 6月21日(日)
13時30分～15時00分
ところ 諫早市美術・歴史館 2階研修室
内容 芥川賞作家 野呂邦暢の「諫早菖蒲日記」
と「諫早市史」で諫早の歴史を振り返る
講師 堀 輝広(美術・歴史館長)
受講料 無料

●申込方法

住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、下記のいずれかの方法でお申し込みください。

- ・はがき(〒854-0014 諫早市東小路町2-33)
- ・ファクス(0957-24-6633)
- ・メール(bireki@city.isahaya.nagasaki.jp)

※6月7日(日)必着(電話での申込はできません)

※申込多数の場合は抽選となります

新型コロナウイルス感染症への対応について

- 1 入口に消毒用アルコールを設置しています。
- 2 館内の手すり、ドアノブ、タッチパネルなど手指が触れる機会が多い場所を中心に消毒を行っています。
- 3 お客様対応を行うスタッフがマスクを着用しています。
- 4 受付・窓口に、感染防止のためのパネルを設置しています。

※みなさまの健康と安全を第一に考え、感染リスクに備えるためのものです。ご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解とご協力をお願いします。

homepage →



Instagram →



貸館の利用について

美術・歴史館のホール、企画展示室、研修室はごなたでもご利用できます。(要予約・有料※減免制度があります)
ただし、利用目的が美術(写真、漫画を含む)、華道、茶道及び歴史などに限られております。詳細は、お気軽にお尋ねください。

個人やグループでの作品発表の場、歴史等の勉強会などにご利用いただけます。

―編集後記―

例年、4～5月は、常設展示室のプレゼンテーションウォールを開放しており、新緑の美しさと共に展示物を楽しんでいただいています。
今回は4月8日～5月25日までの期間開放し、現川焼、亀山焼、鵬ヶ崎焼のほか、古伊万里や諫早で焼かれた甕山焼を展示していますが、外出自粛、臨時休館と重なり多くの方に来館し楽しんでもらうことはできませんでした。
表紙の「鍾馗像(甕山焼)」は、今回の展示している資料の一つです。新緑の中に勇壮に佇む姿が美しいですね。
来年は、ぜひ来館いただき、この季節ならではの展示を楽しんでいただきたいと思います。

(野田せやか)